

第 10 回 R カップ 報告

※R カップとは・・・竜ヶ崎第一高校出身の指導者、竜ヶ崎一高出身の指導者の教え子の指導者が所属するチームで行う対抗戦。
出場校数によってばらつきはあるが、2 日間のトーナメント形式で行われる。

今回は出場校 14、12 チームで行われ、初日は 4 会場での三つ巴。2 日目は 3 会場での 4 校トーナメントで実施された。※（専修大松戸、竜ヶ崎第一、藤代、石岡第一、取手松陽、取手第一、藤代紫水、土浦第二、江戸崎総合、八千代、東洋大牛久、矢板中央、常磐、水海道第一）

1 日目（牛久球場）

水海道一 5－2 東洋大牛久

序盤は硬さがみられ、相手に先制を許す展開であったが、5 回に 2 点を挙げ、同点に追いつき、7 回には安打を集め一挙 3 点。終盤に再度ピンチが訪れるもなんとか粘り抜き勝利した。

水海道一 4－6 取手松陽

前半は相手投手を攻略することができず、要所で得点を奪われ最大 6 点差まで開いてしまった。相手投手の交代に合わせ、8 回に 3 点、9 回にも 1 点を挙げ 2 点差にする。なおも 2 死 1、3 塁のチャンスから水越丈が相手投手の直球をとらえ、打球は左中間へ。抜けると思われたが、相手選手が好捕。あと一歩及ばずという内容であった。

2 日目（牛久球場） 初日の結果を受けて 2 位グループ（5～8 位決定戦）

水海道一 7－5 矢板中央（栃木県）

力で上回る相手に全員で挑み勝ち取った勝利であった。先制を許すも 4 回には相手ミスに乗じて 4 点を返し、松井、青木葉のバッテリーが緩急を使った投球で、それにあわせ守備も粘り強く守り切った。6 回に 1 点、7 回に 2 点を返されるも、7 回に機動力を絡めて 2 点を追加、8 回にも 1 点を挙げ、最後までリードを許さなかった。

水海道一 7-8 常磐（群馬県） 延長10回タイブレーク

※最終順位6位

1試合目の勢いそのままに連打で序盤に6点のリードを奪うも、徐々に相手打線につかまってしまう。6回に1点を追加したが、満塁のチャンスを逃してしまう。ここが一つのポイントであった。後半粘りを見せるも、追いつかれタイブレークの未敗れた。

秋の大会に敗れて以降、この大会に向けて積み重ねてきたことが実った大会であった。3か月の間に見せてくれた成長から一冬越えた姿にも期待を寄せずにはられない。このチームの特徴である粘り強い守備と、勢いに乗った攻撃をさらに磨き、来春そして夏の選手権にむけていい冬を過ごしていきたい。